

## 令和3年度 教職実践研究フォーラム 2022年3月5日開催

今年度も、コロナ禍によりオンラインでの開催となりましたが、教職実践研究フォーラムを開催することができました。現職教員学生6名と学部卒学生5名の計11名の発表がありました。100名を超えるお申し込みをいただき、県外からも

多くの方々に参加していただきました。参加者からは、「研究内容が現場の教員にとって大変参考になる」「大変関心深い研究で、今後の更なる研究が期待される」といったメッセージをいただきました。

## 離任の挨拶 豊かな時間をありがとうございました 津山勝義



中学校を定年退職した後、教職大学院でお世話になりました。管理職の重責から解放され、38年間の教職及び事務局職員の経験をじっくり振り返る時間をもてたことは、大変ありがたく有意義でした。深く感謝いたします。また、学校経営と国語科の専門性を認めてくださり、4年間で6人の院生と共に学校運営・教員育成や国語科等、自分の好きな領域について語り合い実践できたことは、心から愉快的なことでした。授業についてもこれまでの経験知を理論に照らして形式知に置き換えながら準備をする日々は、省察と洞察の繰り返しがあり深く学ぶ楽しさがありました。院生の皆様に、この学ぶ楽しさが伝わっていたならばうれしいと思います。

来年度からは、直島町の教育長として再び現場の実践家に復帰します。皆様のご支援をお願いするとともに、教職大学院の先生方、院生の皆様との連携が深まることを期待しています。4年間、ありがとうございました。皆様の益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。



## Web 上にて「大学院説明会」を開催中！

香川大学教職大学院では、大学院説明会特設ホームページを開設しています。教職大学院を紹介する情報を動画等で掲載しています。また、院生による「学修日記」では日々の活動が紹介されています。右側のQRコードより閲覧してください。教職大学院について個別の質問がある方はフォームを用意しておりますのでご利用ください。



# 令和3年度修了生の声

## 充実の1年間を終えて 学校力開発コース 日吉のり子

教職大学院では、1年間という短い期間でしたが、大変充実した毎日を送ることができました。実践研究では、現場にいるときは違った視点で置籍校を見つめ直すことができました。管理職を始めとする置籍校の教員と、個別に学校課題について話す機会をもつことができ、実践研究に取り組むことによる気づきが多くありました。

また、先生方のご助言や講義、他の院生との対話を通じて、それまでの自身の実践を省察することができました。それまで自分が「何となく」あるいは「当たり前」で取り組んでいたことについて、見直したり理論付けをしたりすることにつながりました。

間もなく現場復帰しますが、教職大学院での学びを還元し、自分はさらに学び続けていきたいと思います。1年間ありがとうございました。

## 教職大学院での学びを ふりかえり 授業力開発コース 川中美紗代

教職大学院での学びを通して、多様な見方・考え方に触れることができました。講義では、テーマに基づいて討論する機会が多くあり、討議の中で自分とは違う考えを発見できたり物事に対して根拠を持って考えようとしたりできるようになりました。私は養護教諭を志望していますが、大学院では様々な校種を超えて、現職教員と学部卒学生とが共に学べるため、広い視野で物事を捉える機会が多くありました。さらに実習では、附属学校に加えて公立学校でも授業実践や子どもたちとの関わりをもつことができ、実習先の先生の姿を通して「こんな養護教諭になりたい」というめざす像が明確になりました。これからも学び続ける姿勢を大切にし、養護教諭として頑張っていきます。

## 院生生活を ふりかえって 特別支援力開発コース 中尾弦太

大学院では、教育制度や学校組織といった広い視点や、専門性に特化した深い視点から学び直すことができました。実践研究では、研究という枠組みを通して、教育的課題を解決するための考え方や学び方を知りました。また、1つの研究課題を深く学ぶことで、自らの見方・考え方が広がっていく感覚を何度も体験しました。院生生活では、院生同士で実践研究や指導実践について何度も語り合いました。様々な教育的課題について議論した日々は私にとって、忘れることのできない貴重な時間となりました。学校現場に戻った際は、大学院で学んだ知識や体験を自らの指導実践に活かし、現場の先生方と共に学び合いながら教育活動に取り組んでいきたいと思っています。

## 令和3年度における修了生の活躍 植田和也

第2期生の橘和代先生は、現在、香川県教育委員会保健体育課で主任指導主事としてご活躍です。四国地域教職アライアンスの保健室ラボ2021の講師や附属高松小学校研究発表会の分科会指導者の他、養護教諭をめざす院生にもアドバイスをさせていただくなどご活躍、嬉しい限りです。

第2期生の吉村佳苗先生は、香川県小学校教育研究会道徳部会の研究発表校として学校全体で実践に取り組む中、特別支援学級での道徳科の授業を工夫し、様々な支援を生かした実践を行い、12月の道徳ラボでも取組を発表してくれました。県外の参加者からも、反響が寄せられ好評でした。院での学びを生かした取組に、我々も責任の大きさを再認

識しました。

第4期生の福本香緒里先生は、2021年7月号『英語教育』（大修館書店）の特集「なにを・どう学べる?『教職大学院』」のコーナーで、「それは『知識・技能』の習得を超えて」と題して、教職大学院での学びの意義や成果を執筆してくれています。特に視野を広げてくれる授業や仲間からの刺激がご自身の変容に影響があったようです。有難いエールです。

それ以外にも、多くの修了生が校内だけでなく様々な場で、それぞれの立場で活躍されていることを嬉しく思います。修了後も大学院とのつながりを大切にしていきたいと思います。